

SSCテーマトピックは、冬季3回シリーズで「高等学校における特別支援」をテーマにし、京都府の現状や視覚支援や聴覚支援等にかかわる地域支援の現状などをコラムとして発信します。

### 切れ目ない支援

『自治体においては、関係部局・関係機関の連携の下、特別な支援を必要とする子供に対して、就学前から就労に至るまで、一貫した支援体制の整備を図る必要がある。（文科省「切れ目ない支援体制整備充実事業」より引用）』と、国としても事業として「切れ目ない支援」を推進しています。京都府では、学校における体制整備および関係部局や機関の連携協力による地域の支援体制整備等を総合的に推進するため、さまざまな取組を行っています。

### SSC 南部地域の視覚・聴覚支援の相談支援の事例より

#### 弱視（視覚障害）

- ・自身の見え方に関して理解する
- ・視覚支援機器(単眼鏡・拡大読書器等)の使い方を身につける
- ・適切な支援を求められる

#### 社会参加(自立)に向けて

こんな力がつくように…

#### 難聴（聴覚障害）

- ・自身のきこえに関して理解する
- ・補聴機器(補聴器・人工内耳・補聴援助機器等)の適切な管理・使用を身につける
- ・適切な支援を求められる

#### 本人に向けて

##### 視覚

保有する視力を活用できるような見る意欲を高める活動を行ったり視覚支援機器の練習をしたりする。

##### 聴覚

就学前の継続相談等により聴覚活用をすすめる。

気づく・知る

#### 保育園・幼稚園

#### 学校(園)に向けて

席の位置や目印など、本人がわかりやすく安全に活動しやすい環境を伝える。補聴器等、機器の適切な使用や管理を促す。

#### 小学校

##### 視覚

自分が見やすい環境や文字の大きさなどを自覚できるように支援する。視覚支援機器の活用を進める。

##### 聴覚

補聴器(人工内耳)の適切な使用・管理を促す。

自覚する

本人が見やすい・聞きやすい教室環境や方法を伝える。個別の指導計画や教育支援計画のもとに、自立活動の指導について助言・支援する。周囲への障害理解教育を進め、本人への自己理解を促す。

#### 中学校

##### 視覚

視覚支援機器を状況に応じて適切に選択したり、自分が見やすい環境や文字の大きさなどの配慮等を自分から求めたりすることができるように、学校・本人を交えて一緒に話す場をもつ。

##### 聴覚

他者へ自身のきこえについて説明ができるよう、聴覚支援担当等から本人へ説明を行い理解を促していく。

選択する・発信する

全教科で統一した配慮が提供できるように理解を促す。定期試験や受験等で適切な支援を受けられるよう、本人の意向を踏まえた試験での合理的配慮の相談を進める。

#### 高等学校

##### 視覚・聴覚

自分自身が主体となって自分に必要な配慮等を学校や周囲に求めていけるよう、サポートを行う。

自ら求める

進路(進学・就労)を見据え、本人が自分に必要な配慮を周囲に求めやすいように、本人の意向を踏まえて調整を行う。

セルフアドボカシースキルの獲得

巡回相談等による継続支援

### 社会参加(自立)

SSC南部地域の視覚・聴覚支援では、ひとつひとつのステージを大切に、社会参加(自立)に向けて就学前から高等学校卒業までの切れ目ない支援を目指しながら本人が身につけていくべき力がつくように、相談支援を実施しています。

#### 【参考文献等】

文部科学省、「切れ目ない支援体制整備充実事業（特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備事業）」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1420861\\_00008.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1420861_00008.htm),(2023.11.21)